

(1) 具体的な推計モデルの構築について

- ・ 資料3-1, 2において、各推計モデルの考え方を示しているが、モデルの具体的な関数式や説明変数は、統計的な検証を踏まえて検討する。
- ・ なお、モデルの統計的な検証で有意な結果が得られない場合には、説明変数の追加・変更、過去の実績値の平均値や現況値固定などによる推計などの代替案について検討する。

(2) 将来交通量予測のあり方に関する検討委員会報告書(平成16年3月)における指摘事項への対応方針

- ・ 第1回検討会(資料4)に示した「将来交通量予測のあり方に関する検討委員会報告書(平成16年3月)」における指摘事項のうち、以下の指摘事項へは、次のように対応する。
 - ① **品目の詳細化と限界**
指摘事項 : 長期の交通需要推計においては、詳細な品目別に区分することで不確実性の要因をより多く取り込んでいる可能性もあり、細分化に関して検討する必要がある。
対応方針 : 指摘事項を踏まえ、品目区分の見直しの必要性について検討する。
 - ② **定数項補正について**
指摘事項 : 遠い将来の交通需要推計を取り扱う場合には定数項補正は行わない方が望ましいが、比較的近い将来の推計値は実績値へすり付けを行うことが望ましく、その方法について検討する必要がある。
対応方針 : 指摘事項の通り対応する。
 - ③ **都道府県別推計について**
指摘事項 : 乗用車のべ利用人数から自動車交通量(台トリップ)の推計に際し、都道府県別に推計することを検討する必要がある。貨物も旅客と同様に、都道府県別に自動車交通量(台トリップ)を推計することを検討する必要がある。
対応方針 : 旅客については、細分化に伴う統計的な検証を行いつつ、検討する。
貨物では輸送距離帯で特性が異なり、長距離輸送の多くは都道府県を越えるトリップとなっていることから、地域の細分化よりも輸送距離帯別の特性を反映させた推計を行う。

(検討事項)

推計モデルの具体化に当たって、上記の方法で検討を進めてよいか。